

モモ「夢桃香」の品種特性を活かした省力的な収穫方法

芦澤勇太¹、○小根山瑞葉²、池田博彦³
 1: 峡南農務事務所 2: 果樹試験場 3: 担い手・農地対策課

背景・目的

【課題】

- モモ「甲斐トウ果17」（商標名：夢桃香）は軟化しにくい新たな肉質のため、既存品種のように手で触った弾力を目安にした収穫が難しい
- 現状では、果梗部の地色の抜けを目安に収穫する（図1）

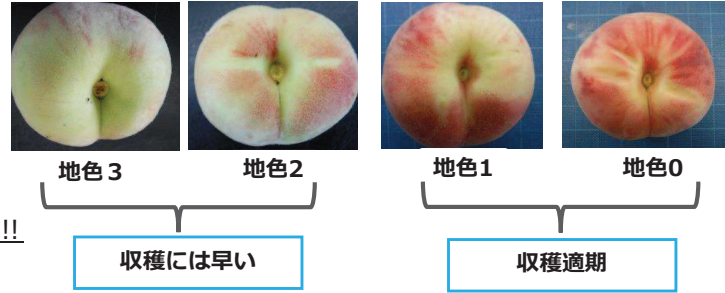


図1 果梗部の地色を用いた収穫の目安

しかし、すべての果実を確認しながら収穫すると多くの時間を要する!!

樹上での日持ち性が優れる特徴を活かした省力的な収穫方法を開発

方法

- 地面から樹冠先端までの高さを上部と下部に2分割（図2）
- ※収穫の目安となる果実の「地色」は果実着果位置の高さと関連があり、高いほど地色の抜けが早い（データ省略）
- 上部、下部の中で一番低い側枝を選定（図2①,②）
- 上部、下部それぞれの果実数の10～15%にあたる果実を①や②から選定し、地色を確認（図3）
- （本試験では①、②の先端部、中央部、基部から果実を各2個、計6個を選定）
- 選定した果実のうち、約8割（本試験では5個）の地色が収穫適期となった時期に、上部を一斉収穫（図4）
- 上部収穫後、②も同様の方法で地色を確認し、下部を一斉収穫

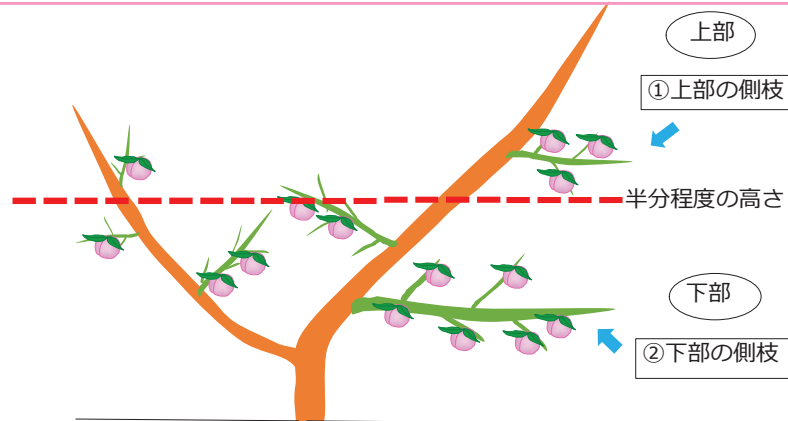


図2 開心自然形(模式図)



図3 確認する果実

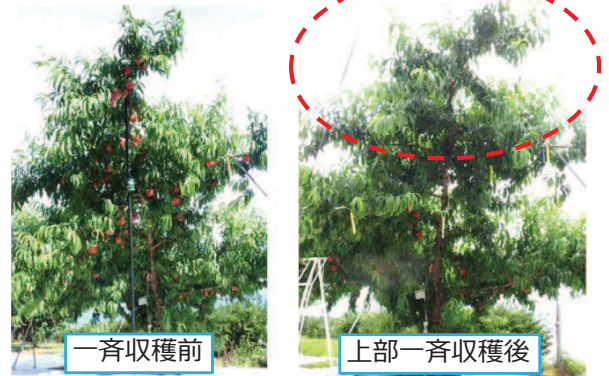


図4 上部一斉収穫

結果

【収穫作業時間】

熟度を判断するために地色を確認する果実数が少なく、熟度を確認後、上部、下部に2分割した範囲を一斉に収穫するため、収穫の作業時間は、慣行収穫と比較して**約6割削減**できた（表2）

表1 省力的な収穫方法が「夢桃香」の収穫作業時間削減に及ぼす影響(2022~2023)^y

試験区	作業時間 ^z (h/10a)	削減率 (%)
省力収穫	7.3	57.6
対照 (慣行収穫)	17.2	

z) 収穫作業時間は、作業者1人で果実を収穫し、収穫カゴに入れるまでの時間を積算し、10aあたりで換算した
 y) 夢桃香 (8~9年生) 開心自然形、一重有袋 n=2

【果実品質】

糖度や地色などの果実品質および果肉障害の発生率は慣行の収穫方法と比較し同等で、バラツキの差もなく、**十分な品質を確保**することができた（表3）

表2 省力的な収穫方法が「夢桃香」の果実品質に及ぼす影響 (2022~2023) ^z

試験年次	試験区	収穫 (月/日)	糖度		地色 ^y		果肉障害 ^x (%)
			(°Brix)	標準誤差	(指数)	標準誤差	
2022	上部一斉収穫	7/1	12.3	0.2	1.4	0.1	0.0
	下部一斉収穫	7/4	11.8	0.2	1.2	0.1	0.0
	対照 (慣行収穫)	7/1,4,6	11.9	0.1	1.2	0.1	1.4
2023	上部一斉収穫	7/3	13.1	0.2	0.7	0.1	0.0
	下部一斉収穫	7/5	12.4	0.2	0.9	0.1	4.5
	対照 (慣行収穫)	6/28,30, 7/3,5,7	11.9	0.1	1.0	0.1	4.7

z) 夢桃香 (8~9年生), 2本主枝開心自然形、一重有袋、試験は主枝単位で行った(n=28~72)
 y) 地色: 0 (緑色なし) ~3 (緑色)
 x) 水浸状の果肉障害発生率

期待される効果

収穫にかかる作業時間が削減でき、省力栽培が可能となる